

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来！チャレンジ21」](#) > [2002年放送分\(非公開\)](#) > 11月2日放送 長野五輪で結束！ 車ディーラーがリサイクル工場

11月2日放送 長野五輪で結束！ 車ディーラーがリサイクル工場

2日(TX・TVO)

3日(TVA・TVH・TVQ・RCC)

4日(BSJ)放送

使用済み自動車のリサイクル化と適正処理を先取りして、環境保全に対する組合員の意識改革を行い結束した(協)長野県中古自動車リサイクルセンター(出資金1億1,520万円、組合員56社)。

長野県の全域をカバーする処理能力を持つ解体工場を建設し、環境保全を第一とした資源の再利用に取り組む同組合の姿を紹介する。

長野五輪で結束！

車ディーラーがリサイクル工場

[視聴覚教材No. TV14-31](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



「長野県中古自動車リサイクルセンター東部町事業所」

「あれ？ナンバーが無いですね。車をこれからどうするんですか？」

と志垣さん。

ここは、長野県の東部町。

環境問題を考えて、新たなリサイクルシステムを作った協同組合。





「中古部品等、使える物、また需要のあるものは使うようにする。それから後は、鉄なら鉄、アルミならアルミで分別もしています。」と、飯田所長から説明を聞く。

この協同組合は、長野県内の自動車販売業者が集まり、廃棄自動車を責任を持って処理するために作られた。

この工場では、現在、年間2万～2万1,000台が処理されている。



「長野県中古自動車リサイクルセンター仁科副理事長」

組合を立ち上げる際に、配慮したことは…。

- POINT: 車が確保できるか？
- POINT: 本当にもうかるのか？
- POINT: 地域の方の賛同が重要！



リサイクルセンターを作るまでの話を仁科副理事長に伺う。

「以前は中古車でも多少のお金になったが、時代の変化に伴って、お金を出さなければ処理できなくなった。そういう時代になって、リサイクルセンターが本当に必要だと。」

リサイクル工場の周辺は田園地帯。環境を壊すことがないように、慎重な配慮と地元の人たちへの十分な説明が必要だった。



工場は、液抜き作業室、部品取り作業室、解体プレス室の3部門で構成され、全て室内で作業を行うことにより、環境汚染物質、公害物質の飛散を防止している。



再利用が可能なエンジンや部品は、取り外され海外を中心に販売されている。

海外からバイヤーが、直接買いつけている姿も。



「志垣さん 仁科副理事長 飯田所長」

志垣さんは、リサイクルシステムを、なぜ作ることができたのか改めて伺った。「自立できる、自分の足で立てる経営でなければいけないという理念でやれた。こういう時代が来ると読み、5～7年前に皆に訴え、一本にまとまった。そして、長野の冬季オリンピックがあり、国際都市化になるので、こういう美観景観がいかげなものかと。」と仁科副理事長。そして、飯田所長も、「長野オリンピックがきっかけとなり、皆がまとまった。」と語る。

[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN